

「女性の活躍促進・企業活性化推進営業大作戦」

第12回 埼玉労働局長（代田雅彦）の企業トップ訪問

平成25年8月8日、埼玉信用組合の鈴木理事長をお訪ねしました。



訪問企業プロフィール

埼玉信用組合（理事長 鈴木 洋一）

本庄市児玉町44番地16

中小企業等金融業

労働者数 170名（うち女性 84名）

訪問のあらまし

平成25年8月8日、埼玉信用組合に、理事長鈴木洋一氏をお訪ねしました。管理部部長の栗原雅紀氏、総合企画室長の徳世光司氏にもご同席いただきました。

同組合は、地域の方々から預かった預金を元に地元の中小企業等に融資を行っています。より一層地域に根ざしていくためには、ほとんどが地域住民でもある従業員の能力発揮が不可欠で、中でも女性の力を活かしていきたいと考えています。

平成17年に初めて女性を管理職に登用したことを皮切りに女性の活躍推進に取り組み、現在では女性の育児休業取得率は100%で、ほぼ全員が復職しています。また、

残業を減らす努力の結果、ほぼ定時に帰宅できるようになったそうです。金融業は機械化が難しい部分もあるのですが、可能な範囲で機械化も進めているとのこと。

その結果、女性が継続就労しやすくなり、今では女性の係長が39%まで増えています。また、融資や渉外といった従来女性があまり配置されてこなかった職域にも女性が



進出するようになり、中には男性をしのぐ成績をあげる女性も出てきました。

代田局長が「今までどのような苦勞があったのでしょうか？」とお尋ねすると、「縦割り意識をなくし、横の連携を取れるようにしていくこと、育児休業から復帰した人が前向きにブランクを埋めて働けるようにすることが大変でした。」と鈴木理事長。

例えば、今年7月から3店舗を統轄する統轄店を作り、3店舗の中で不足している店舗に人員を配置できるようにしたそうです。また、新入職員には3年間で全職務を担当できるように教育しています。こうした職員の複能力化を通じて休業取得者等が出た場合にカバーし合える体制作りも目指しているそうです。

代田局長も「最初は大変でも、まずは制度を作って改善していく中で職場の魅力がアップすることを企業トップから現場に伝えていくことが大切ですね。今後は復帰者の意見を更なる工夫につなげていただくとさらに取組が進むでしょう。」と申し上げました。

今後の目標をお尋ねすると、「まだまだ十分とは思っていません。さらに工夫を凝らしていきたい。早く女性支店長を出せるよう職員の能力アップを図りたい。それがひいては地域からの支援や職員のモチベーションアップにつながっていくと考えています。」と鈴木理事長。

代田局長から、「従業員の皆さんに長く勤めてもらって、企業が人に投資したものを働いている場、そして地域に還元してもらうことが魅力ある職場につながります。その魅力が外部からも評価されるようにな



ると仕事にも好影響があります。女性にとって働きやすい職場は男性にとっても働きやすい職場ということが言えます。」とエールを送りました。

男女問わず活躍できる魅力ある職場作りに邁進している埼玉信用組合。今後仕事と家庭を両立しながら、地域と職場に貢献する女性がさらに増えていくことを期待しています。